原著

數種無蛋白培地ニ於ケル結核菌ノ發育ト 「ツベルクリン」産生トノ關係 結核菌ノ發育ニ關スル研究(其ノ2)

九州帝國大學醫學部細菌學教室(主任 戶田忠雄教授)

醫學士 吉 田 長 之

目 次

緒 論

第一章 實驗方法

第一節 使用菌株

第二節 實驗操作

第三節 使用各培地/製法

第二章 實驗成績

第一節 「ツベルクリン」産生ト培地成分

第一項 各培地成分 ト 結核菌發育量

第二項 培養濾液ニ、三鹽化醋酸ヲ附加セル

場合ノ沈澱物浮游狀況

第三項 三鹽化醋酸附加後遠心法ニョル沈澱

狀況

第四項 各種沈澱劑 ニョル「ツベルクロプロテイン」沈澱量ノ比較

第五項 培地 PH ノ 移動ト「ツベルクロプロテイン」産生能

第六項 「ツベルクロプロテイン」沈澱量 ト「ツベルクリン」皮内反應

第二節 水可溶性「ツベルクロプロテイン」沈澱 ニ必要ナル水素「イオン」濃度ノ限界ニ 就テ

第一項 實驗方法

第二項 實驗成績

總括竝考按

結 論

文 獻

附圖說明 附 岡

緒 論

結核菌發育培地トシテハ數多ノ合成培地アリ、就中「ツベルクリン」産生ノ目的ヲ以テ特ニ考案セラレタル培地ハ極メテ多シ。1929年 Henley (山口)ハ「ツベルクリン」産生培地トシテ理想的ナルハ、次ノ條件ヲ必要トスト言へリ。即チ最短期間内ー、而モ發育菌量最モ多キ培地タルコトヲ要スト。

斯ノ意味ニ於テハ Henley and Le Duc (3) (1930) 等ノ Ammonium malate 培地ハ Henley 氏 「アスパラギン」含有培地ヨリ、「ツベルクリン」 産生用培地トシテハ遙カニ劣ルワケナリ。其ノ後 White (4)(1934) ハ Purified Protein Derivative (P.P.D.) ヲ製作 スル 際、使用合成培地内ノ「アスバラギン」含有量ヲ大量トナスコトニョリ、培養結核菌ノ發育ヲ良好トナシ、而カモ豫想以上ノ蛋白分子量ヲ獲得スルコトー成功セリ。Wong and Weinzirl (6)(1936) ハ頗ル經濟的ナル培地ヲ發表シ、其ノ際他ノ培地ト比較スル條件トシテ、發育菌量ノ大小ノミヲ以テシ、「ツベルクリン」産生能ニ關シテハ觸レザリキ。

他方、近年ニ至り、多クノ學者ニョリテ、「ツベルクロプロティン」抗元ハ 結核ノ 発疫及ビ脱感 作實驗ニ使用セラルル傾向多ク必然的ニ次ノ如 +幾多ノ疑問ヲ生ズルニ至レリ。

即チ、(1)諸種合成培地内 - 於 ケル「ツベルクリン」産生能 ナルモノハ、従來考 ヘラレタル如ク、結核菌ノ發育量ト平行スルモノナリヤ。

(2)然リトスレバ、「ツベルクリン」産生ニ及ス要約トシテ、發育菌量以外ニ別種ノ因子アリヤ。(3)合成培地内ニ於テ産生 セラルル「ツベルクロプロテイン」沈澱量ト「ツベルクリン」皮内反應强度トハ相平行スルモノナリヤ。

然ルニ是等ノ問題ニ關シテ詳細ニ研究セル者少ク、僅ニ次ノ如キ人々ノミナリ。即チ、1928年 Seibert (6)ハ Synthetic medium tuberculin (S.M.T.) 研究報告ニ於テ Tuberculoprotein 産生量ト培養期間トノ關係ヲ論ジ、1934年同氏のハ P.P.D ノ分離實驗中、同型ノ或ル結核菌株ハ他結核菌株ノ三倍量ノ「ツベルクリン」ヲ産生セシコトヲ經驗セリ。

1937 年 Wong (*) ハ「グリセリン」ヲ含有セズ而

モ「ツベルクリン」産生能大ナル培地ヲ製セリ。 該培地ハ Long (4) 氏培地ノ3分ノ1ノ代價ニテ 濟ミ、「グリセリン」ノ代用物トシテ葡萄糖ヲ用 ヒタリ。而 シテ、培養ノ途中ニ 於テ、培地ヲ 「アルカリ」側ニ 移動 セシムルトキハ「ツベルク リン」産生能大トナリ、且ツ、培地ヲ「アルカリ」 側ニナス際、Long 培地ニ比シ、菌發育量約半 量ナルニ、其ノ「ツベルクリン」收量ハ三倍量ニ 相當 セシコトヲ 報告 シ、結核菌ノ 發育量ト、 「ツベルクリン」産生能トハ必ズシモ平行スルモ ノニアラザルコトヲ實證セリ。

何レニセヨ、實際問題トシテ、種々ノ目的ニ、「ツベルクリン」ヲ使用セントスル際、吾人ノ希望トスル所ハ、最短期間ニ、最大量 バッベルクリン」ヲ産生シ、而カモ 價格低廉ナル 培地タルコトナリ。

偶々著者ハ、結核菌ノ 發育並 ビニ「ツベルクリン」産生ニ及ボス培地ノ諸要約ニ就テ、研究シッツアリ。弦ニハ今日迄ニ得タル成績ノモラ報告シ將來ノ研究ニ資セントス。

第一章 實驗方法 第一節 使用崩株

本教室ニ保存ノ人型强毒菌F株ヲ用ヒタリ。約 1ヶ月ニシテ最高發育ニ達シ「ツベルクリン」産

生ノ研究ニ便利ナル菌株ナリ。

第二節 實驗操作

豫メソートン氏培地-3週間培養セル結核菌ノ 菌膜ヲ直徑7mmノ大型渦卷白金耳ヲ以テ略を 等量宛取リ「ツベルクリン」産生用ノ「コルベン」 ニ移植ス。各「コルベン」内ノ培地容量ハ便宜上 200ccトシ、實験ノ精確ヲ期センガタメ、同條件 ノ「コルベン」4個宛ヲ使用セリ。

菌移植後6週乃至8週ニシテ、各「コルベン」ヲ 100℃, 20分滅菌シ、濾紙ヲ以テ、「ツベルクリ ン」含有濾液ヲ濾過シ、該遮液ニ就キテ「ツベル クロプロテイン」含有量ヲ測定セリ。 「ツベルクロプロテイン」測定方法

100度 20 分滅菌 セル 上述原滤液ノ適當量ヲ遠心管ニトリ、1分間 3000 廻轉遠心器ニテ 遠心沈澱シ上清ヲ滅菌試驗管ニトリ、該液チ 0.5cc、1.0cc、2.0cc宛鳥潟沈澱管ニ入レ、各々等量ノ20%三鹽化醋酸溶液ヲ加へ、24時間氷室ニ保存シ、沈澱物浮遊狀況ヲ觀察シタル後、再ビ1分間 3000 廻轉遠心器ヲ 使用シ、30 分間遠心シ、沈渣ヲ讃ムコトトセリ。而シテ、直チニ此ノ値ヲ以テ「ツベルクロプロテイン」量ト 見做シタ

り。 「ツバルクロプロテイン」沈澱劑トシテハ後述ス ル如ク、三鹽化醋酸ノ代リニ、「ズルフ₄ザリチ ール」酸、5%「メタ」燐酸、エ<u>スバ,ハ</u>氏試薬、

使用培地トシテハ次ノ如キモノヲ用ヒタリ。

燐「タングステン」酸、10%加里明礬ヲモ用ヒ、 比較對照セリ。

水素「イオン」濃度測定ニハ比色法ヲ用ヒタリ。

B液ハ20cc宛試驗管ニ 分注 シ100℃ 15 分1 囘

第三節 使用各培地製法

培地番號(3) Long (9)氏人工培地 Lo	ong and
Seibert, 1926)	
Wasser	1000c.c.
Glyzerin	50c.c.
Magnesium sulphate	1.0g
K_2HPO_4	3.0g
Na carbonate	$3.0\mathbf{g}$
Asparagin	5.0g
Eisen-Amm-citrate	$0.05\mathrm{g}$
Ammonium-citrat	5.0g
PH 7.2 ニ修正シ、各「コルベン」ニ 200)c.c.宛分注
シ、100°C 30 分3日間滅菌ス。	
培地番號(4) Glukose-Maltose me	dium
A液	
Malic acid, the inactive form	$10\mathrm{g}$
Ammonium hydroxide (10 per ce	nt
Solution)	40c.c.
Potassium acid phosphate	3g
Sodium chloride	2g
Magnesium sulphate	1 g
Ferric ammonium citrate	$0.04\mathrm{g}$
Distilled water	900c.c.
以上ヲ加熱溶解シ、沈澱ヲ生ズル故ニ	-、濾紙二
テ濾過シ、內容 500cc ノ「フラスコ」=	- 180cc 宛
分注シ、100℃ 30 分1 回滅菌シンチム	A液トシ、
下記ノB液ヲ調製シとニ加へ、100℃	15分3回

滅菌ス(A液 180cc+B液 20cc)。

Distilled water to make

 $50\,\mathrm{g}$

10 g

100c.c.

B液

Glukose

Maltose

滅菌ス。	
培地番號(7) Sauton 氏人工培地	
Wasser	940c.c.
Glyzerin	60c.c.
Mag sulfat	0.5g
Asparagin	4.0g
K₂HPO₄	0.5g
Acid, citric	2.0g
Eisen Amm citrat 0	$.05\mathrm{g}$
PH 7.2 ニ修正シ、各「コルベン」ニ 200c	c宛分注
シ100℃ 30 分3日間滅菌ス。	
培地番號(6) Sucrose-Glukose medi	um
A液	
Malic acid, the inactive form	10g
Ammonium hydroxide (10 per cent	t
solution)	40 c.c.
Potassium acid phosphate	3g
Sodium chloride	2g
Magnesium sulphate	1 g
Ferric ammonium citrate	0.04g
Distilled water	900c.c.
以上ヲ加熱溶解シ PH7.2 トシ、濾紙=	ニテ濾過
シ、各「コルベン」ニ 180ca 宛分注シ、1	.00°C 30
分1囘滅菌ス。	
B液	
Sucrose	50 g
Glukose	$10\mathrm{g}$
Distilled water to make	100c.c.
B液ハ20cc宛試驗管ニ 分注シ15 分滅菌	
液 180ca = 附加 シ後、100°C 15 分 2 回流	成菌ス。
培地番號(2) Glukose-Sucrose medi	um

シ、15 分滅菌 シ、
100℃15分2囘滅
!(Sauton 氏變法)
940c.c.
60c.c
$0.5\mathrm{g}$
8.0g
$0.5\mathrm{g}$
2.0g
$0.05\mathrm{g}$
トシ、濾紙ニテ濾
注シ、100℃ 30分

第二章 實驗成績

第一節 「ツベルクリン」産生ト培地成分(實驗第一)

結核菌培地成分トシテ極メテ重要ナル因子タル「グリセリン」含有培地並ニ「グリセリン」不含培地ノ數種ヲ使用シ、各培地ニ於ケル人型菌ノ發育量ト「ツベルクロプロテイン」量トガ果シテ並行スルモノナリヤ否ヤヲ檢スルタメニ本實驗ヲ行ヒタリ。

第一項 各種培地成分卜結核菌發育量

第一表ノ如ク、實驗ニハ各 4 個宛ノ「コルベン」 ヲ使用セリ。ソノ結果ハ Long 氏培地ハ最モ發 育可良ニシテ、「味ノ素」加培地(ソートン氏變 法)之ニ次ギ、「グリセリン」不含 Glukose-Maltose (5:1) 培地、ソートン氏培地、「グリセリン」 不含 Sucrose-Glukose (5:1) 培地、「グリセリン」 不含 Glukose-Sucrose (5:1) 培地 ノ順序ナリ。

而シテ Glukose-Maltose (5:1) 培地ハ人型結核 菌發育要素タル「グリセリン」 チ含マザルニモ不 拘「グリセリン」含有ソートン氏培地ヨリモ發育 勝レリ。本事實 ハ「グリセリン」 チ 含有 セズトモ、糖類 チ適常ニ選擇スル場合ニハ、結核菌發

育培地トシテ可成り優秀ナル培地タリ得ルコトラ示スモノナリ。然レドモ Sucrose-Glukose 培地及ビ Glukose-Sucrose 培地ハ 他培地ニ比較シテ、發育餘り良好ナラズ。「グリセリン」ノ代リニ糖類ヲ以テ代用スル際ニハ、糖類ノ種類並ニ其ノ量的關係ニ重大ナル關係アルモノト思惟セラル。從ツテ此ノ難點ヲ避クル簡易ナル方法トシテ、依然トシテ「グリセリン」ハ Kohlen-

第1表 人型F株7週培養ニ於ケル發育狀況

菌發育狀況	培養基「コル ベン」番號				
培 地	I	11	Ш	IV	
3. Long's medium	###	###	###	##	
4. Glukose-Maltose medium (5:1)non Glycerol	₩	, 	₩	₩	
7. Sauton's medium	++	++	++	++	
6. Sucrose-Glukose Medium (5:1) non Glycerol	+	+	+	+	
2. Glukose-Sucrose Medium (5:1)non Glycerol	+	±	_	_	
A. 「味ノ素」加培地(ソート ン氏變法)	##	##	##	##	

二體化階段/加ベグル物日/水ル									
(水川) (水川) (水川) (水川) (水川) (水川) (水川) (水川)				添加 二於 物污 沈沙	l ₃ CO 1後24 か が 数 で 数 で が 最 で が 最 で が と る る る る る る る る る る る る る る る る る る	時間 沈澱 リノ			
	0.5			!	1.0				
3. Long's med	##	##	##	++	++	++			
4. Glukose-Maltos Med	e ++	++	++	##	##	##			
7. Sauton's med	++	++	++	++	++	++			
6. Sucrose-Glukos Med	e			+	+	+			
2. Glukose-Sucrose Med	e +	+	+	+	+	++			

第2表 人型F株 50 日培養ニ於ケル培養濾液ニ 三曠化醋酸ヲ加ヘタル場合ノ狀況

stoffquelleトシテ重要ナル要素タル位置ヲ失ナハズ。

|

A. 「味ノ素」加培地

第二項 三鹽化醋酸附加ニヨル沈澱物 生成狀況

第2表ノ如ク、沈澱管内ノ濾液量 + 0.5cc、1.0 cc、2.0ccノ三組ニ分ケ各培地ノ原濾液ニ三鹽化醋酸 + 加へタル直後ノ濾液ノ白濁狀況及ビ、24 時間水室靜置後ノ沈澱物生成狀況 + 比較スルニ、「味ノ素」加培地ハ最大ナレドモ、純粹ノAminosaüre ナラザル故ニ と + システント + ハ、添加直後ニ於テハ Long 氏培地、Sauton 氏培地、Glukose-Maltose 培地、Glukose-Sucrose 培地、Sucrose-Glukose 培地ノ順ナリ。三鹽化醋酸添

加後氷室 24 時間放置後沈澱物浮遊狀況ハ、添加直後ト異ナリテ、Glukose-Maltose 培地、Long 氏培地、Sauton 氏培地、Glukose-Sucrose 培地、Sucrose-Glukose 培地ノ順序ニシテ、後述スル如ク、鳥潟氏沈澱管ニョリテ遠心沈澱シタル後ノ實際上ノ沈澱量ト比較スルニ、白濁ニョル外見上ノ沈澱量推定ハ不確實ナルチ 知 ルベシ。

第三項 三鹽化醋酸添加後遠心ニョル 沈澱量

第3表ノ如ク、鳥潟氏沈澱管内ニ菌培養後ノ濾液 チ 0.5cc、1.0cc、2.0cc宛注入 シ、之ト各々同量 ノ 20% CCl₃COOH チ 注加 シ 24 時間氷室ニ保存シタル 後之チ 毎分 3000 廻轉遠心器 チ以テ 30 分間遠心 シタル後、其 沈澱量 チ 目盛 チ 以テ 測定セリ。各培地ノ「ツベルクリン」産生能力ハ Glukose-Maltose 培地、Long 氏培地、Sauton 氏培地、Glukose-Sucrose 培地、Sucrose-Glukose 培地ノ順ニシテ、 こチ各培地ノ結核菌 發育量ト比較スルニ、Glukose-Maltose 培地ハ、Long 氏培地ヨリモ發育劣レルニモ拘ハラズ、「ツベルクロプロティン」産生能力 ハ 却テ 優 レリ、且ツGlukose-Sucrose 培地ハ Sucrose-Glukose 培地ヨリモ發育劣レルニ、第3表ノ如ク、「ツベルクロプロティン」沈澱量ハ多シ。

然ルニー方、Long 氏培地ト Sauton 氏培地ト ラ比較スルニ、前者ノ發育量ハ後者ヨリモ遙カ ニ勝ル、然ルニ「ツベルクリン」産生能ハ少シク 勝レタルノミ。

弗の衣	八型F/休 50	日培養憑後中人	Luberculoprotein	沈殿量
	1			

₩

			CCl ₃ COOH ニョル沈澱量 沈澱管内ノ原濾液量				
培 地	發 育 菌 量	濾液ノ PH					
			0.5cc	1.0aa	2.0c.c.		
3. Long's medium	##	6.2	2.5	4.0	6.8		
4. Glukose-Maltose Med	#	7.4	3.2	5.1	7.6		
7. Sauton's med	++	7.6	2.1	3.5	6.0		
6. Sucrose-Glukose Med	+	7.4	1.9	2.5	3.2		
2. Glukose-Sucrose Med	+(±, -, -)	7.2	2.5	4.0	4.7		
A. 「味ノ素」加培地	- 111	7.8	3.8	5.8	8.5		

Sucrose-Glukose 培地及 Glukose-Sucrose 培地ハ發育量、並ニ「ツベルクリン」産生能力兩者共ニ他種培地ヨリモ遙カー劣ル。

「味ノ素」加<u>ソートン</u>氏培地 ノ 沈澱量 ハ 甚ダ多シ。サレド、「味ノ素」自身、Glutaminsaures Natrium 以外ノ不純物チ含ム故ニ、上述培地ト同條件ノ許ニ比較シ得ズ。

以上ニョリテ、菌發育量ト「ツベルクリン」産生能ハ必ズシモ平行セズ、却ツテ、逆現象チ示スコトアルヲ知レリ。即チ菌發育量多キ培地ハ、「ツベルクリン」産生用培地トシテ必ズシモ、適切ナリト謂ヒ難シ。

今囘ノ實驗ニ於テ Glycerol チ含有セザル Glukose-Maltose 培地ハ甚ダ優秀 ナリシコトハ興 味アル點ナリ。

更二培養濾過液ノPHト Tuberculoprotein 沈 澱量トラ比較スルニ、菌發育量甚が多キニ拘ハ ラズ沈澱量少キ、Long 氏培地ハPH 6.2ナル ニ Glukose-Maltose 培地ハPH 7.4 ニシテ「ア ルカリ」性ラ示シ、他ノ培地モ第3表ノ如ク「ア ルカリ」性ナリ。 即チ培地ノ 終末水素「イオン」 濃度ハ、「ツベルクリン」産生能ト密接ナル關係 アルモノノ如ク、第4表ニ示ス如ク、PH ラ「ア ルカリ」側 ニナストキハ「ツベルクリン」産生能 増大スルモノノ如シ。

第四項 各種沈澱劑ニョル「ツベルクロ プロテイン」沈澱量ノ比較

第4表記載ノ如ク Tuberculoprotein 沈澱用試 薬トシテ下記ノ如キモノヲ使用セリ。

1) 三鹽化醋酸 10%溶液 ヲ使用シ、培養濾液

ニ對シ該液2ccヲ附加シ、遠心沈澱シ、沈澱量ヲ目盛ニテ測定シ記入セリ。以下ノ試薬ニ就テモ、同一方法ヲトレリ。

2) 「スルフォサリチール」酸 20%溶液 ヲ 使用 セリ、即 チ 該製法ハ 13 瓦ノ「サリチール」酸 ラ 10cc / 濃硫酸ニ溶解シ、100cc ニ 稀釋 セルモノ ヲ用ヒタリ。

3) 5%「メタ」燐酸液

Acidum phosphoricum glaciale meta pro analysi (Schering-Kahlbaum) ヲ碎 キ、ソノ5 瓦ヲ 水ニ溶解シ全量 ヲ 100cc、トナス。 但シ溶解スル際加熱ヲ避ク、而シテ使用時以外、之ヲ氷室内ニ貯藏スルトキハ少クトモ約1 筒月半ハ不變ナリ。

- 4) 「エスバッハ」試藥 「ピクリン」酸 10 瓦、枸 櫞酸 20 瓦ォ蒸溜水ニ溶解 シ 1000cc トス。 黄色 ノ溶液ナリ。
- 5) 燐「タングステン」酸溶液5%硫酸水中ニ30%/割合ニ燐「タングステン」 酸ヲ溶解セルモノ。
- 6) 10%加里明礬液、成ル可ク精製セラレタル モノヲ用ヒタリ。

以上ノ如キ蛋白沈澱劑 ヲ用 ヒテ、人型結核菌 Frankfurt 株 60 日培養濾液中ノ 蛋白分子ヲ沈 澱セシメタルニ、第 4 表ノ如ク、各沈澱劑ノ種 類ニョリテ、沈澱量ハー定セズ、即チ三鹽化醋酸ノ場合ハ Glukose-Maltose 培地及ビ Sauton 氏培地、共二等量ノ沈澱ヲ生ジ、Long 氏培地 (PH 6.2)及ビ Sucrose-Glukose 培地ハ遙カー少量ナリ。

AX 1 ==	I THIT LA CO	日本金統治統治		Tuberculoprotein	Not some the
20.4 夫	人型巨粒	日投海湖海田	,	Luberculoprotein	沙沙湖

		菌發	濾液ノ	「ツベルクロプロテイン」沈澱用試薬							
培 地		菌發 育狀 況	Рн	三鹽化 醋酸	「スルフ* サ リ チ ル」酸	5%「メ	「エスバッ フア」試 薬		10%加 里明礬		
3. Long's me	dium	###	6.2	6.0	4.5	3.2	4.6	6.0	0.9		
4. Glukose-M	laltose Med	##	7.5	9.5	9.3	6.5	8.5	9.8	1.5		
7. Sauton's n	nedium	++	7.2	9.5	9.5	8.5	5.0	5.5	1.5		
6. Sucrose-Gl	ukose Med	+	7.5	5.0	4.5	4.5	8.4	3.6	0.5		
A. 「味ノ素」	加培地	##	7.6	10.5	13.5	10.5	3.5	14.5	1.5		

沈澱劑「スルフ,サリチール」酸 / 場合 ハ Glukose-Maltose 培地 (9.3) Sauton 氏培地 (9.5) ニ シテ、殆ド沈澱量等シク、Long 氏培地 (4.5)、 Sucrose-Glukose 培地 (4.5) ニシテ沈澱量等シ。・ 5 %「メタ」燐酸 チ 使用スル時へ Glukose-Maltose 培地 (6.5)、Sauton 氏培地 (8.5) ニシテ、 前者 ハ後者ョリモ、沈澱量少シク劣ル。 Long 氏培 地 (3.2)、Sucrose-Glukose 培地 (4.5) ニテ菌發 育量ト逆ノ現象チ示セリ。

Esbach' Reagenz チ以テ沈澱セシムルニ、Glukose-Maltose 培地(8.5)、Sauton 氏培地(5.0) Long 氏培地(4.6)、Sucrose-Glukose 培地(8.4) ーシテ、前述三種ノ沈澱劑使用ノ場合ト可成リ 異ナレル沈澱狀況ヲ示シ、殊ニ Sucrose-Glukose 培地(8.4) ハ大ィニ異ナル點ナリ。

燐「タングステン」酸ニョル沈澱狀況ヲ見ルニ、Glukose-Maltose 培地(9.8) ハ Sauton 氏培地(5.5) ノ約倍量ノ沈澱量ヲ示シ、Long 氏培地(6.0) ハ Sucrose-Glukose培地(3.6) ノ倍量ニ相當シ、各培地間ノ沈澱量ノ差大ナリ。

10%加里明礬使用 / 際 ハ Glukose-Maltose 培地 (1.5) ハ Sauton 氏培地 (1.5) ト等シク、Long 氏培地 (0.9) ハ Sucrose-Glukose 培地 (0.5) ノ約倍量ナリ。

以上ノ實驗成績 ニョリテ、三鹽化醋酸、「スルフォリチール」酸、5%「メタ」燐酸/三者パTuberculoprotein 沈澱剤トシテ、多少ノ差異ハアレドモ、各培地間ノ相互關係相似テ充分使用ニ 堪ユルモノト考ヘラル。サレド、「エスバッファ」 試築、燐「タングステン」酸、10%加里明礬ハ、沈澱量ノ差異甚ダシク、各培地相互關係モ、前

三者ト全ク狀況ヲ異ニシ、斯クリ如キ實驗ニハ 不適當ナルモリト認メラル。

而シテ人型F株 60 日培養ニ 在 リテモ、菌發育 狀況並ニ濾液ノ水素「イオン」濃度ト、培養濾液 ノ Tuberculoprotein 含有量トノ相互關係ハ第 3表 50 日培養ノ場合ト殆ド同様ナリ。

第五項 培地 P_H ノ移動ト Tuberculoprotein 産生能

前述ノ實驗ニヨリテ、培養濾液ノ PH ト、「ツ ベルクロプロテイン」産生能トノ 間ニハ 密接ナ ル關係アルコトヲ知レリ、於是、培養途中ニ於 テ、人工的ニ PH ヲ移動セシメ、該關係ヲ知ラ ントシ、Long 氏培地並ニ Glukose-Maltose 培 地ヲ用ヒ、人型F株 60 日培養 ノモノー、 N/10 NaOH ヲ少量加へ、對照 トシテ之ヲ 附加セザ ルモノヲトレリ。兩者トモ 其ノ後 25 日間 38°C ニ培養シ、100℃20分滅菌シタル後、濾過シ、 培養濾液ニ就 キテ、 Tuberculoprotein 沈澱量 ヲ測定セルー、第5表ノ如キ成績ヲ得タリ、卽 Long 氏培地 - 於テ、PH 6.0 及ビ PH 6.2 ノ 培養濾液ニ就キ比較スルニ、沈澱劑トシテ、三 鹽化醋酸、「スルフォサリチール」酸、 5%「メ タ」燐酸、10%加里明礬、「エスバッファ」試樂ヲ 用フル際、何レノ場合ニ於テモ、PH 6.2 ナル 培養濾液ハ PH6.0 ナル培養濾液ヨリ勝ル。 且ツ亦 Glukose-Maltose 培地ニ 於テモ同様ニ シテ、第5表ノ如ク、PH7.2 ナル培養濾液ノ沈 澱量ハ PH7.0 ナル培養濾液ノ沈澱量ヨリモ、 鳥潟沈澱管ノ目盛ニテ0.7 乃至1.3 多シ。サレ バ以上ーヨリ、培養途中ニ於テ、PH ヲ「アルカ り」側ニ移動セシムル 時ハ Tuberculoprotein

第5表 培地水素「イオン」濃度ノ移動ト「ツベルクロプロテイン」産生能

培 堆	濾液ノ	a液/ 「ツベルクロプロティン」沈澱用試藥							
	Рн	Trichlor- essigsäure	Sulfosali- cylsäure	5%Meta 燐酸	10 % Kalialaun	Esbach 試 藥			
3. Long's medium	6.0	2.9	1.8	5.0	3.05	4.1			
3'. Long's medium	6.2	2.95	1.85	5,0	3.1	4.9			
4. Glukose-Maltose Med r Gylcerol	7.0	4.1	3.2	3.1					
4'. Glukose-Maltose Med r Glycerol	7.2	4.8	4.2	4.4					

産生能モ良好トナルコトヲ知レリ。

第六項 Tuberculoprotein 沈澱量ト 「ツベルクリン」皮内反應トノ關係

前述ノ如キ、三鹽化醋酸ニョル 沈澱量 ト「ツベルクリン」皮內反應强度トガ相並行スルナラバ、無蛋白「ツベルクリン」檢定方法トシテ、該方法モ用と得ルワケナリ。

第6表ハ、人型F株50日培養濾液ノ「ツベルクロプロテイン」沈澱量ト「ツベルクリン」皮内反應强度ヲ比較セルモノニシテ、化學的不純ナル「味ノ素」加培地ハンヲ除キ、純粹 Asparagin ヲ合有スル Sauton 氏培地ノ沈澱量ハ三者ノ中、最大量ナリ。「ツベルクリン」皮内反應ヲ見ルニ人體實驗ニ於テハ該濾液ヲ0.1cc皮内ニ注射セル場合 48 時間後其ノ發赤 40×70 mm ニシテ、硬結モ 相當程度認メラレ、Glukose-Sucrose Med ハ19×17 mm, Sucrose-Glukose Med.ハ16×16 mm ーシテ、三鹽化醋酸ニョル沈澱ト、大體ニ於テ並行ス。然ルニ海須ニ於テハ表ノ如ク、Sauton's Med, Sucrose-Glukose Med.

Glukose-Sucrose Med. ノ順序ニ皮內反應出現

シ人體ノ場合ト少シク異ナレドモ、Sauton 氏 培地ノ反應力最高ナル點ニ於テハ同様ナリ。「味 ノ素」加培地ハ参考トシテ該表ニ 加 ヘタルノミ ・ナリ。

第7表ハ、人型F株培養濾液-就キ、各種培地 ノ沈澱量ト皮内反應强度トヲ比較セルモノニシ テ、對照トシテ傳研製舊「ツベルクリン」10 培 液ヲ使用セリ。原濾液ハ、稀釋セズシテ其ノマ マ、0.1ccヲ海復皮内ニ注射シタリ。

表ニョリテ、判明スル如ク、各々海猽ニョリテ 反應强度ハ異ナレドモ、沈澱量多キ、Long 氏 培地ハ、48 時間後ノ反應最モ强ク、次ハ沈澱量 少シク劣レル Sauton 氏培地ナリ。 Glukose-Maltose 培地ハ沈澱量大ナルニモ關ハラズ、皮 内反應度ハ比較的弱シ。 Glukose-Sucrose 培地 及ビ Sucrose-Glukose 培地ハ沈澱量何 レモ少 ーテ、且ツ皮内反應度モ弱シ。参考トシテ使用 セル「味ノ素」加培地ハ「アミノ」酸以外ノ不純物 質ラ含有セル故、三鹽化醋酸ニョル沈澱量大ナ ルニ比シ、皮内反應の双弱シ。

第8表ハ、人型F株60日 Long 氏培地培養濾

第6表 人型F株 50 日培養濾液 / Tuberculoprotein 沈澱量ト' ツベルクリン」皮内反應トノ關係

培地			醋酸ニョ		「ツベルクリン」皮内反應ノ程度			
,	ノ沈澱			1	人	體	海 猽 (1)	海 猽 (2)
2. Glukose-S	ucrose Med	2.5	4.0	4.7	19×	17mm	6× 5mm	5 × 3mm
6. Sucrose-G	lukose Med	1.9	2.5	3.2	16×	16mm	9× 7mm	15×12mm
7. Sauton's	Med	2.1	3.5	6.0	40×	70mm	13×10mm	16×12mm
A. Ajinomoto	加培地	3.8	5.8	8.5	20×	18mm	10× 9mm	11×10mm

第7表 人型F株 50 日培養濾液ノ Tuberculoprotein 沈澱量ト「ツベルクリン」皮内反應トノ比較

培 地	三鹽化醋酸ニョル「ツ ベルクロプロテイン ₁			「ツベルクリン」皮内反應ノ程度			
76 25	沈澱量		, - ,	海 猽 (6)	海 猽 (7)	海 猽 (8)	
2. Glukose-Sucrose Med	2.5	4.0	4.7	7× 7mm	18×15mm	10×10mm	
3. Long's Med	2.5	4.0	6.8	15×11mm	18×15mm	10×10mm	
4. Glukose-Maltose Med	3.2	5.1	7.6	11×10mm	6× 6mm	11×10mm	
6. Sucrose-Glukose Med	1.9	2.5	3.2	10×10mm	10×10mm	10×10mm	
7. Sauton's Med	2.1	3.5	6.0	11×11mm	16×10mm	12×11mm	
A. Ajinomoto-Medium	3.8	5.8	8.5	8× 7mm	20×15 mm	10×10mm	
K. Old Tuberculin-10 x-Denken				7× 6mm	6× 6mm	9× 8mm	

	, ,,,	-,-,,	- J 1/L VAX.	ne.	5/2	C/P1 // 150 / 150 / 1	
	地	培養濾液 ノ PH	「ツベルクロ プロ テイン 」沈澱		「ツベルクリン」皮内反應ノ程度		
培			三鹽化 醋酸	「スルフォ サリチー ル」酸	人 體	海 猽 (4)	海 猽 (5)
3. Long's medium 6.0		2.9	1.8	20×20 mm	15×12mm	18×18mm	
3'. Long's medium 6.2			2.95	1.85	25×20 mm	16×13nm	25×17mm

第8表 人型F株60日 Long 氏培地培養=於テ培養濾液 / PH ヲ異ニセル場合 / 「ツベルクロプロテイン」沈澱量ト「ツベルクリン」皮膚反應トノ關係

液 ラ 使用 セルモノニシテ、培養ノ途中ニ於テ、 人工的ニ PH ラ 移動セシメタルモノナリ。 PH 6.2 ナル培地ハ「ツベルクロプロティン」沈澱量 モ大ニシテ、「ツベルクリン」皮内反應ノ强度ハ 人體ニ於テ、48 時間後發赤 25×20 mm ナルニ、 PH 6.0 ナル培地ニ於 テハ 20×20 mm ナリ。 且ツ海復ニ於テモ同様ニシテ、表ノ如ク、PH 6.2 ナル培地ハ「ツベルクリン」皮内反應强シ。 即チ、同一培地ニ於テ、PH ヲ異ニスル場合、「ツベルクロプロテイン」沈澱量ト「ツベルクリン」皮内反應トハ互ニ相並行スルモノナリ。

第二節 水可溶性「ツベルクロプロテイン」沈澱ニ必要ナル水素 「イオン」濃度ノ限界ニ就テ(實驗第二)

所謂 Tuberculoprotein ノ分離並ニ之が精製ニ 關シテハ、該物質が最大ノ沈澱ヲナスタメニ、 如何ナル等電位點ヲ有 スル カヲ 檢索 スルコト ハ、極 メ テ 重要 ニシテ、Gabbe⁽¹⁰⁾ (1923) 及ビ Long and Seibert (9)(11) (1926) ハ PH 4.0 ニ近シ ト言と、Hanan, E. B. and Ericks, W. P.(12) (1937) ハ變性セザル Tuberculoprotein ハ最大 沈澱域 PH 2.8 ニシテ PH 2.4 ヨリ 3.0 迄ノ間 ニ在リ、且ツ、 加水分解 セル後ノ Tuberculoprotein ハ、之ョリ「アルカリ」側ニ傾キ、PH 4.6 ナリト報告セリ。而シテ該實驗ニハ Long 氏無 蛋白培地ヲ使用セリ。余ハ偶こ、實驗第一ニ於 テ各種無蛋白培地ノ「ツベルクリン」産生能ヲ比 較研究セリ。於是、各種培地ニ就キテ、Tuberculoprotein 沈澱ニ必要ナル PH ノ差異ヲ研究 セルヲ以テ、併セテ報告スル次第ナリ。

第一項 實驗方法

水素「1 ォン」濃度標準液トシテハ Mc Ilvaine's PH Standards ヲ使用セリ。該標準液ノ製作方 法ハ第 6 表記載ノ如クニシテ、PH 2.2 ヨリ PH 7.0 迄ノ溶液ヲ作リ、實驗ニ供セリ。

該標準液8㎝ニ、結核菌培養濾液1㎝ヲ附加ス

スルモ、混合液ノ PH ハ實測ニョリテ、殆ド變化セザルコトヲ利用シ、PH2.2 ョリ、PH6.0 ニ至ル、20種ノ標準液8 cc宛ヲ遠心沈澱管ニトリ、之一、實驗第一ニ使用セル、結核菌培養濾液1 cc宛ヲ附加シ、一夜氷室ニ靜置シタル後、1分3000 廻轉遠心器ニテ30分遠心シ、沈澱狀況ヲ檢査シ、續イテ該液ノ上清2 cc宛ヲ滅菌「ピペット」ニテ鳥潟氏遠心沈澱管ニトリ、三鹽化醋酸2 cc宛ヲ注加シ、1分3000 廻轉遠心器ヲ使用シ、30分遠心シ、前沈澱操作が完全ナリャ否ヤヲ確メタリ。

本實驗ニ使用セル培地並ニ培養期日ハ實驗第一部ニテ使用セシ、Long 氏培地、Glukose-Maltose 培地、Sauton 氏培地、Sucrose-Glukose 培地ニシテ、何 レモ 人型結核菌 F株 60 日培養 濾液ナリ。

第9表 Mc Ilvaine's PH Standards

Рн	0.2M. Na ₂ HPO ₃	0.1M. citric acid
required	c.c.	GG.
2.2	0.80	39.20
2.4	2.48	37.52
2.6	4.36	35.64
2.8	6.34	33,66

3.0	8.22	31.78
3.2	9.88	30.12
3.4	11.40	28.60
3.6	12.88	27.12
3.8	14.20	25.80
4.0	15.42	24.58
4.2	16.56	23.44
4.4	17.64	22.36
4.6	18.70	21.30
4.8	19.72	20.28
5.0	20.60	19.40
5.2	21.44	18.56
5.4	22.30	17.70
5.6	23.20	16.80
5.8	24.18	15.82
6.0	25.26	14.74
6.2	26.44	13.56
6.4	27.70	12.30
6.6	29.10	10.90
6.8	30.90	9.10
7.0	32.94	7.06

第二項 實驗成績

1) Long 氏培地

60 日培養 ノモノーシテ、實驗時濾液 / PH ハ 6.2、第 10 表記載 / 如 ク、 Tuberculoprotein 沈澱域ハ PH 2.2 ョリ次第ニ增量 シ、PH 3.6 及 ビ 3.8 ニ至リテ、最高値 チ 示シ、 PH 4.0 ョリ、PH 6.0 ニ至ル間ハ沈澱 チ 生 ゼ ズ。

上述沈澱域内ニ在リテハ、遠心沈澱後上清2ccニ、三鹽化醋酸2cc。宛ヲ附加スルモ、殆ド沈澱スル蛋白分子ナク、PH3.8 ヨリ PH6.0 ニ至リ、沈澱量次第ニ増加シ、PH5.6、PH5.8、PH6.0 ノ場合ハ、鳥潟沈澱管内ノ沈澱量1.0、1.5、1.5 ナリ。

即手以上ニョリ、PH 2.8 乃至 PH 3.8 迄ハ相 當量 / Tuberculoprotein 沈澱シ、PH 3.6 及 ビ3.8 ニ於テ、沈澱量ハ最高ニ達スルコトラ知 レリ。

2) Glukose-Maltose 培地

實驗時 / 培養滤液 PH 7.4 ニテ、人型 F株 60 日 培養 / モノニシテ、實驗成績 ハ第 11 表ニアリ、

第10表 水可溶性「ツベルクロプロテイン」 沈澱ト水素「イオン」濃度(Long 氏培地 (3)號 PH6.2 ヲ使用セル場合)

試驗管番號	標準液ノH	水可溶性「ッベル 沈澱狀況 標準液 8 cc十遍液 1 cc附加遠心後ノ 沈澱狀況	法水丝,上注900
1	2.2		_
2	2.4		_
3	2.6		
4	2.8	+	_
5	3.0	+	_
6	3.2	+	_
7	3.4	+	_
8	3.6	++	_
9	3.8	++	1
10	4.0	_	
11	4.2	_	
12	4.4		
13	4.6	_	1
14	4.8	_	
15	5.0	1	
16	5.2	_	
17	5.4	_	
18	5.6	_	+ 1.0
19	5.8		+ 1.5
20	6.0		+ 1.5

即チ、PH 標準液 8 cc = 培養濾過液 1 cc + 附加シ、遠心後ノ沈澱狀況 + 見ルニ PH 2.2 ョリ次第ニ増量シ、PH 2.8 ニ於テ 最高ニ達シ、 更ニ少シク減量シ、PH 4.2 - 至 ルマデ (+)以上ナリ。PH 4.4 ョリ PH 5.4 迄ハ、極メテ 少量沈澱シ、PH 5.6、5.8、6.0 ハ沈澱全クナシ。

更ニ遠心後ノ上清 2 cc宛ニ、三鹽化醋酸 2 ccヲ 附加セル後ノ沈澱管内ノ狀況ヲ比較スルニ上述 實驗ニ於テ最高沈澱ヲ 生 ゼシ、PH 2.8 ニ於テ ハ沈渣 0.05 ニテ極メテ 微量 ナリ。然ルニ、上 述實驗ニ於テ、沈澱量少ナカリシ限界卽チ PH 數ノ増加ニ伴ヒテ、三鹽化醋酸ニョル沈澱ハ次 第二增量シ、PH 5.6、5.8、6.0 ニ於 テハ 鳥潟 氏沈澱管ノ目盛 ニテ、3.3、3.2、3.2 ナリキ。 卽チ本實驗ニ際 シ、水可溶性「ツベルクロプロ

第 11 表 水可溶性「ツベルクロプロテイン」 沈澱ト水素「イオン」濃度培地(4)號PH 7.4 Glukose-Maltose 培地使用

試	標準	少年/807 计标文点	クロプロテイン 」
驗管番號	平液 ノ PH	標準液 8 cc+濾液 1 cc附加遠心後ノ 沈澱狀況	遠心後ノ上清2cc 十三鹽化醋酸2cc 附加後ノ鳥潟沈澱
1	2.2		管内ノ 沈澄 1 0.03
			1 0.05
2	2.4		
3	2.6		<u>]</u> 0.05
4	2.8	###	
5	3.0	###	」0.1
6	3.2	111	」0.1
7	3.4	++	J 0.1
8	3.6	++	J 0.1
9	3.8	+	
10	4.0	+	1.5
11	4.2	+	1.4
12	4.4		1.5
13	4.6		1.8
14	4.8		2.1
15	5.0	1	2.2
16	5.2		2.4
17	5.4		2.6
18	5.6		3.3
19	5.8	_	3.2
20	6.0	_	3.2

ティン」ノ最モ多ク沈澱スルハ PH 2.8(柵) PH 3.0(冊) ニ相當セリ。

3) Sauton 氏培地

人型F株 60 日培養濾液 7用 ヒタリ。 實驗時 / PH 7.2 ーシテ、實驗成績第 12 表 / 如シ。即手標準液 8 cc ニ培養濾液 1 cc ラ附加シ遠心後 / 沈澱狀況 ラ見ルニ、PH 2.2 及 2.4 ニ於テハ沈澱セズ、PH 2.6 ョリ沈澱量増加シ初メ、PH 3.8 ー於テ、最高値ニ達シ、再ビ減少シ PH 4.4 ニ至ル迄沈澱 ヲ認ムルモ、PH 4.6 ョリ PH 6.0 迄ハ全ク沈澱 ヲ生ゼズ。

次ニ上述遠心沈澱後ノ上清ニ、三鹽化醋酸ヲ附加セル場合 PH 2.8 ヨリ PH 4.3 迄ハ沈渣ナク沈澱完全ナルコトヲ示シ、他ノ PH 域ニ於テハ表ノ如ク相當量ノ沈渣ヲ生ズ。

第 12 表 水可溶性「ツベルクロプロテイン」沈 澱ト水素「イオン」 濃度 Sauton 氏培地(7) (PH 7.2)ニ於ケル「ツベルクロプロテイン」

試驗	標準	54-381 HT: 4D	レクロプロテイン」
驗管番號	液	t無神波: R cc 上海波	遠心後ノ上清 2 cc 十三鹽化醋酸 2 cc
来	ルノ	保卓板のWー徳板 1 cc附加遠心後ノ	十三鹽化醋酸 2 cc
跳	Pн	沈澱狀況	附加後ノ鳥潟沈澱
3//L		1/LUX1/L1/U	管内ノ沈査
1	2.2		++ 2.0
2	2.4		+ 0.5
3	2.6	+	0.3
4	2.8	++	
5	3.0	++	<u></u>
6	3.2	++	
7	3.4		
8	3.6	++	
9	3.8	##	_
10	4.0	++	_
11	4.2	++	-
12	4.4		Ĺ
13	4.6	_	ل
14	4.8		J
15	5.0	_	J
16	5.2		
17	5.4	_	ا
18	5.6	_	++
19	5.8	_	
20	6.0		J

以上1如ク Sauton 氏培地使用1場合ハ、PH 2.8 ョリ PH4.0 迄相當量沈澱シ、最高沈澱量 ハ PH3.8 ナリキ。

4) Sucrose-Glukose 培地

人型F株 60 日培養濾液ニツキ 實驗 セリ。實驗 時ノ PH 7.5 ニテ、第 13 表ノ如シ。

即チ、標準液 8 cc = 培養濾液 1 cc + 附加セル後 水室ニー豊夜靜置 シタル 後遠心沈澱 シタルニ PH 2.2 ヨリ PH 2.6 迄(+)ニシテ、ソレヨリ、 減量シ、PH 3.6 三至リ再ビ(+)トナリ、PH 4.2 ヨリ沈澱量増加 シ PH 4.6 ニ 於テ 最高値 ニ達 シ、ソレヨリ次第ニ減量ス。

上述實驗ニ於ケル遠心沈澱後ノ上清ニ、三鹽化 醋酸ヲ附加セル場合、沈澱管内ノ沈渣ヲ比較ス ルニ PH2.2 ヨリ PH3.6 迄ハ、沈渣極メテ微 量ニシテ、PH3.8 ョリ PH5.4 ニ至ル 間ハ、 沈渣ヲ全ク認メズ。 PH5.6 ョリ PH6.0 迄ハ 再ビ極メテ少量沈澱ス。

即手以上ノ實驗ニョリ、Sucrose-Glukose 培地 尹使用スル場合、水可溶性「ツベルクロプロテ イン」ハ PH 4.6 ニ 於テ、沈澱量最高ナルコト ヲ知レリ。

第 13 表 培地(6) PH7.5 Sucrose-Glukose 培地=於ケル水可溶性「ツベルクロプロテイン」ト水素「イオン」濃度

	試驗管番號	標準液ノ PH	沈澱狀況 標準液8cc十濾液	クロプロテイン」 遠心後ノ上清2ca 十三鹽化醋酸2ca 附加後、沈澱管内 パ沈澄
	1	2.2	+	•
ı	2	2.4	+	•

3	2.6	+	
4	2.8		•
5	3.0	4	•
6	3.2		•
7	3.4	1	•
8	3.6		•
9	3.8		
10	4.0		
11	4.2	++	_
12	4.4	++	
13	4.6	##	
14	4.8		
15	5.0	++	_
16	5.2		_
17	5.4	+	_
18	5.6	++	J
19	5.8	++	<u> </u>
20	6.0	+	<u> </u>

總括竝ニ考按

以上ノ實驗成績ニョリ、次ノ事ヲ知レリ。即チGlycerol ヲ含有セル Long 氏培地ハ結核菌發育培地トシテ、菌發育量ノ點ヨリ甚ダ優秀ナルコト。サレド、「ツベルクロブロテイン」沈澱量ノ點ヨリ比較スルニ、Glycerol ヲ含有セザルGlukose-Maltose(5對1)培地ハ Long 氏培地及ビ Sauton 氏培地ヲ浚駕ス。

他方、「ツベルクリン」皮内反應强度ヨリ比較スルニ、Sauton 氏培地最モ反應力强ク、同一培地ニ於テハ、PH「アルカリ」側ナルモノ程、皮内反應力强ク且ツ、「ツベルクロプロテイン」沈澱量モ之ト相並行ス。

培地ノ終末水素「イオン」濃度ノ「ツベルクロブロテイン」産生ー及ス 影響 トシテハ「アルカリ」側ナル程、産生能大ナルガ如シ。

斯クノ如ク、第一實驗ニョリ合成培地内ニ於ケル「ツベルクリン」産生能ハ、「ツベルクリン」が結核菌ノ新陳代謝産物ナリトセバ、或ル程度迄結核菌ノ發育量ト平行スベキモノナルコトハ勿論ナレドモ、培地成分ヲ變更スル場合ニハ必ズシモ、平行スルモノーアラズ。例へバ Glukose-

Maltose 培地ノ如シ。サレド如何ニシテ斯カル 差異ヲ生ズルモノナルカヲ闡明スルハ極メテ困 難ナル問題ナリ。

培地ノ終末水素「イオン」濃度ラ「アルカリ」側ニナスコトノミニヨリテ、「ツベルクリン」産生能 サ大ニナシ得レドモ、單一之ノミニヨリテ、説明スルコト能ハズ、Glukose 若シクハ Maltose ノ 如キ 糖類ハ「グリセリン」代用物トシテ、結核菌ノ新陳代謝ニ陽與シ、「ツベルクリン」産生 ヲ促進スル作用 アルニアラズヤトモ 思惟 セラル。

更ニ無蛋白培地内ノ「ツベルクロプロティン」沈 よ「ツベルクリン」皮内反應强度トノ關係ニ就 キテハ第6、7、8表ノ如ク、大體ニ於テ、並行 スル場合多キモ、並行セザル場合モアリ、後者 ノ場合ハ極メテ了解ニ苦ム點ナリ。

次ニ水可溶性「ツベルクロプロテイン」沈澱域ニ 關シテハ、第10表ョリ第13表迄記載セルガ如 クニ、最大沈澱量ニ必要ナル水素「イオン」濃度 ハ、Long 氏培地ニテハ PH3.8 Glukose-Maltose 培地ニ在リテハ PH2.8、Sauton 氏培地 ニ於テハ PH 3.8、Sucrose-Glukose 培地ハ PH 4.6 ーシテ、各培地ーヨリテ、水素「イオン」濃

度ヲ異ニス。サレバ培地ノ異ナルニ從**と、其ノ** 最高沈澱域ヲ測定スルコトヲ必要トス。

結 論

- (1)結核菌ノ發育量ト「ツベルクリン」産生量トハ毎常平行スルモノニアラズ。例へバ、「グリセリン」不含、Glukose-Maltose 培地ハ「グリセリン」含有 Long 氏培地ヨリ發育遙カニ尠ケレドモ其ノ「ツベルクリン」産生能ハ大ナリ。
- (2)同一培地内ニ於テ結核菌ノ培養途中ニ於テ PH ヲ移動セシムルトキハ、其ノ終末水素「イオン」濃度「アルカリ」側ナルモノホド、「ツベルクロブロテイン」沈澱量大ナリ。
- (3)Glukose 若 クハ Maltose ノ如キ糖類ハ結 核菌培地成分中 ノ「グリセリン」代用物 トシテ 「ツベルクリン」産生ヲ促スモノノ如シ。
- (4)人工培地内ノ「ツベルクロプロテイン」沈澱量ト「ツベルクリン」皮内反應トハ、大體並行ス

ルモノナルモ、並行セザルモノモアリ。

- (5)各種人工培地ニ於 ケル、水可溶性「ツベル クロプロティン」ヲ最大限ニ 沈澱 セシムルニ必 要ナル水素「イオン」濃度ハ PH 2.8 ヨリ PH 4.6 迄ニシテ、培地成分ノ異ナルト共ニ、沈澱 量並ニ至適水素「イオン」濃度モ變化スルモノナ
- (6)上記「ツベルクロプロテイン」ノ最高沈澱ニ必要ナル至適水素「イオン」濃度ヲ決定スルコトハ所謂「ツベルクロプロテイン」ノ分離及ビ精製ニ際シ、必要缺ク可カラザル事ナリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ、恩師戸田教授ノ御懇篤ナル御 指導並ニ御校閱ヲ謹謝ス。

Bibliography.

1) Henley, R. R., Dextrose in synthetic media for the tubercle bacillus. Amer. Rev. Tuberc. 1929, 19. 660-663. 2) Henley, R. R., A glycerol-free medium for the tubercle bacillus, A mer. Rev. Tuberc., 1935, 32, 724. 3) Henley, E. R., and Leduc; P. W., Ammonia malate as a source fo nitrogen for tubercle bacilli in cultures. Amer. Rev. Tuberc., 1930, 22, 568. W. C., Introduction to Supplement, Purified Protein Derivative. Amer. Rev. Tuberc., 1934, 30, 707. 5) Wong, S. and Weinzirl, J., An inexpensive synthetic medium for growing Mycobacterium tuberculosis. Amer. Rev. Tuberc., 1936, 33, 577. 6) Seibert, F. B., The chemical composition of the active principle of tuberculin. XI. An improved and simplified method for making a standard undenatured tuberculin of any desired strength and a method of chemical assay. Jour. Biol. Chem., 1928, 78, 345. Seibert, F. B., The isolation and properties of

the purified protein derivative of tuberculin. Amer. Rev. Tuberc., 1934, 30, 713. S. C., The relation between the growth of Mycobacterium tuberculosis aud the yield of tuberculin on Synthetic media. Jour. Bact. 1937, 33, 451. 9) Long, E. R., and Seibert, F. B., The chemical composition of the active principle of tuberculin. I. A non-protein medium suitable for the production of tuberculin in large quantity. Amer. Rev. Tuberc., 1926, 13, 393. 10) Gabbe, E., Über das Flockungsoptimum der durch Essigsäure fällbaren Substanz des Tuberculins. Biochem. Ztschr., 1923, 141, 523. 11) Long, E. R., and Seibert, Florence, B., The chemical Composition of the active Principle of tuberculin. II. Precipitation with acetic acid and other acids, Amer. Rev. Tuberc., 1926, 13, 398. 12) Hanan, E.B., and Ericks, W. P., Precipitation of water soluble tuberculoprotein by hydrogen-ion concentration. Amer. Rev. Tuberc., 1937, 36, 244.

附圖說明

人型結核菌F株 50 日培養濾液中 / Tuberculoprotein 洗澱量ヲ示 スモノナリ(別表、第3表記載) 岡ニ於テ 左ヨリ説明スルニ

(9)鳥潟沈澱管内ノ沈澱狀況ニシテ Sucrose-Glukose Medium ヲ使用シ 培養濾液 2 caニ、三鹽化醋酸溶 液 2 caヲ附加セル場合ヲ示ス。沈澱量ハ 3.2 ナリ。 以下第3表ノ如クニシテ

- (S)「味ノ素」加培地ノ場合。沈澱量8.5
- (4)Glukose-Maltose Medium. 沈澱量7.6
- (2)Glukose-Sucrose Medium. 沈澱量 4.7
- (7) Sauton's Medium. 沈澱量 6.0
- (3)Long's Medium. 沈澱量 6.8 ヲ示スモノナリ。



